悠久の歴史を刻む（古代～中世）

藤の森

奈良時代の８世紀初めに編纂された「肥前風土記」には、現在の鹿島市を含む藤津郡の地名の由来として、この地に日本武尊（やまとたけるのみこと）が訪れたときに、大きな藤の木に船をつないだことが由来であると書かれています。今でも納富分末光には「藤津」という地名の場所があり、風土記に伝えられる場所ではないかと考えられています。現在、公園の一角に「藤津」の碑が建てられています。

蓮厳院

平安～鎌倉時代、藤津地方が京都の仁和寺の荘園だった時代に、現在の蓮厳院のあたりに金剛勝院という壮大な寺院が建てられました。この寺院は荘園を管理する役所も兼ねていたと考えられています。蓮厳院には現在も平安時代末に造られた壮麗な定朝様式の阿弥陀如来像（国重要文化財）が残され、当時の京都文化の華やかさを今に伝えています。